

草加のココが聞きたい！

一 般 質 問

一般質問とは、定例会において議員個人が市政全般について市長などの執行部の考えや、方針を質問するものです。

そうか市議会だよりでは、一部の質問を取り上げて要旨を掲載しています。（掲載は発言順です）

なお、草加市議会では、正・副議長、監査委員、議会運営委員会委員長は一般質問等の発言が制限されています。



2月定例会では16人の議員が一般質問をしました！

一般質問の内容は草加市議会ホームページの議会中継（録画放映）からご覧になることができます。また、議会中継のページでは、①「発言通告の内容などでキーワード検索」ができるほか、②「議員名」や③「会派名」ごとに閲覧することができます。



河合悠祐 議員

会派名
会派所属なし

市立病院で産科再開をする意思はあるのか？

問 市立病院で産科を再開したいという方針があるのか。また、産科再開のためには産婦人科医師が8名必要であるとのことだが、現状3名なのでもっと医師を獲得するための努力はできないのか。医師紹介会社の利用や、関連大学を増やすなどの市長の取組について伺う。

民間病院の力も含めると需要と供給のバランスが保たれている状況ではあるが、少子高齢化による医療人材不足などを考慮する中で、将来にわたり地域において安定した産科医療体制を継続するため、市立病院の産科再開が必要であると考えている。

答 現時点においては草加市を含む「埼玉県東部南医療圏」においては、



金井俊治 議員

会派名
草加市議会議員団

小・中学校の災害対策について

問 児童生徒向け、教職員向けの防災教育は

答 教育委員会が中学校区ごとの防災ハンドブックを作成し、令和元年度から全小・中学生に配布している。防災ハンドブックには、自宅や避難場所に印をつけることができる地図や家族と決めた連絡方法や避難場所を書き込む欄があり、ランドセルなどに入れて携帯することで、登下校中に災害等が発生した際に確認できるようにしている。

答 小学5年生と中学1年生を対象に危機管理課作成の草加市ハザードマップを活用した防災学習を実施。また、教職員向けの研修として、危機管理課と連携し、ハザードマップを使った授業など、防災学習実施に向けた研修会を実施している。

問 防災マニュアルミニブックについて



木村忠義 議員

会派名
SOKA新政議員団

空き家等対策について

問 草加市における空き家の状況について。

く損なわれる状態となる。不法投棄の被害防止も含め、引き続き、空き家及び不良状態物件の所有者等に対し建物等の適切な維持管理に努めて頂くよう助言・指導を行うとともに、草加市家屋土地適正管理審議会の意見を取り入れながら関係部局及びコミュニティソーシャルワーカーと連携し、所有者等の事情に応じた丁寧な対応を図っていく。

答 調査対象57,013件に対し空き家と推定される家屋は1,310件あり、割合は2.3%。平成29年度実態調査で推定1,249件。6年で61件増と空き家が増加傾向である。

問 不法投棄やゴミ屋敷問題について。

答 ごみの堆積により害虫・悪臭・火災発生の危険や周辺生活環境が著し



並木正成 議員

会派名
SOKA新政議員団

保育園の保留児童（待機児童）について

問 待機児童問題の現状についてどのように考え、課題はどこにあるのか。

問 今後の待機児童問題解決の方向性は？

答 保育所等の申し込みをして、入園が決定しなかった児童のほとんどが、0歳児から2歳児の低年齢児に集中している。

答 令和6年4月に小規模保育事業2施設の開設も進めている。引き続き、送迎保育事業を始め、様々な保育サービスについて更なる周知を図り、多様化する保育ニーズを的確に捉え、子どもの成長にとって何が一番大事なのかを第一に考え、適正な保育提供体制を検討し、対策を進めていく。

育児休業を取得する方も多く、職場復帰を考えている方のためにも、低年齢児の受け入れ枠をどのように拡充していくかが課題である。

